

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和2年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>【現状】 当町は、高齢化率が全国平均のほぼ2倍近くとなっており、認知症高齢者(Ⅱa)の第1号被保険者に対する比率は増加傾向にあることから、今後も増加していくと予想しています。 また、ここ数年では、要支援・要介護認定者の中に占める要支援者(総合事業対象者含む)の割合が減少しており、平成28年度と29年度の前回判定との悪化の比率は、当町が加入する空知中部広域連合管内市町と比較すると、要支援者のうち悪化した人は、連合管内平均44.7%に対し、当町は66.5%と高い状況にあります。</p> <p>【課題】 ・認知症高齢者及び家族への支援体制の整備や、認知症の早期対応と重度化の防止対策が不十分である。 ・介護度軽度者への効果的な介護予防が不十分である。</p>	送迎付きの転倒予防教室「足若の日」を開催します。	転倒不安感尺度で維持・改善している人の割合80%以上	コロナの影響で6月から再開。実施回数3回減の9回。参加実人数35人。1回平均21.2人。コロナ禍であっても、感染防止対策としてマスク着用、換気、消毒、帰りの便の増便(入浴しない人の待ち時間中接触時間を減らすため)により安心して参加できる環境づくりで、参加人数は維持できている。	◎	参加人数が増加傾向にあり、会場が密にならないよう工夫する必要がある可能性はある。そのときには、開催時間を短縮する。
①自立支援・介護予防・重度化防止		身近な「地域集いの場」で、サポーターが中心となって、いきいき百歳体操を毎週開催します。	65歳以上の人口の1割以上の参加率	6月から再開。再開の際は、ケアサポーターへ感染防止対策の協力を依頼。煩雑な業務(消毒、体温・体調確認、会館用名簿の作成等)をボランティアながら対応してくれて、安心して定期的に参加できる場となっている。	◎	ケアサポーターの負担感を汲み、継続実施できるよう支援する。
①自立支援・介護予防・重度化防止		高齢者自身が心身機能の維持向上が図られるように、インセンティブとしてボランティアポイントを付与します。	令和2年度末、ボランティア登録者55人	コロナ禍で、屋外でも可能なポールウォーキングを新たに紹介することで住民の運動機会が増え、新たなサポーターがやや増加した。	◎	新しい活動を含め、楽しくやりがいを持って継続できるよう支援する。
①自立支援・介護予防・重度化防止		リハビリ専門職等が、加齢や疾病による身体機能の低下を、タイムリーかつ集中的に回復に向けて支援します。	転倒不安感尺度かつ主観的健康観で、維持・改善している人の割合80%以上	感染対策の元、実施できており、参加者は概ね改善できており、達成していると考える。	◎	健診受診者や百歳体操からの把握が十分とは言えず、今後さらに進めていく必要がある。
①自立支援・介護予防・重度化防止		地域ケア会議において、介護(重症化)予防・自立支援の個別ケース検討会議を開催します。	年4回開催	・ケアプランの個別事例を基に専門職種などから自立に向けたアドバイスを受けながら実施 ・開催回数は4回 ・R元年度の個別ケース対象は、「要介護1、2」	○	自立支援型の会議は3回実施で終えたが、コロナ禍では自立支援会議の実施方法について検討が必要。
①自立支援・介護予防・重度化防止		認知症初期集中支援事業を実施します。	定例会議月2回開催	月1回実施(新型コロナ感染拡大防止の為)	◎	問題なく実施することが出来た。
①自立支援・介護予防・重度化防止		認知症の早期発見を目的とした「物忘れ相談プログラム」を実施します。(タッチパネルPC)	月1回開催	・各地区で行われている百歳体操にて月1回実施 ・百歳体操での実施人数のうち、再検査後に基準を満たせなかった対象者を医療機関へつなげることができた ・昨年比で実施者の75%が「改善」「維持」という結果であった	×	コロナ禍では実施困難であったことから評価が行えなかったため、実施方法を検討する必要がある。